

町教委が目指す教育を丁寧に伝えながら、住民の思いをくみ取り、再編統合を具体化

福岡県築上郡 築上町教育委員会

福岡県築上郡築上町では近年、児童生徒数が著しく減少し、学級数の減少や複式学級数の増加などが起きている。また、学校施設の多くで老朽化も進んでいる。そのような中で、「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現するため、学校再編や施設整備の充実に取り組むべく、築上町教育委員会は10校の町立小・中学校を3校体制とする計画を策定。その後、地域住民との対話を重ねながら、最終的に5校体制とする再編統合計画をまとめた。

自治体概要

2006年に椎田町と築城町が新設合併し、築上町が発足。福岡県の東部、周防灘に面し、北九州市中心部まで30kmの通勤圏内に位置する。人口減少への対策として、学校給食無償化などの子育て支援、若者の定住促進に力を入れている。
人口 約16,200人 面積 119.61km² 町立学校数 小学校8校、中学校2校
児童生徒数 小学校約670人、中学校約330人 教員数 109人

再編統合の先にある 目指すべき教育を示す

築上町教育委員会（以下、町教委）で学校規模の適正化に関する議論が本格化したのは2020年になった頃だ。町教委は、同町の人口の推移予測を確認しながら、将来の同町にふさわしい学校数を検討していった。その際には、学校数の議論に終始するのではなく、**時代の変化に対応できる子どもを育てるための新しい学校をつくるという視点**を大切にすると、久保ひろみ教育長は振り返る。

「統廃合のみに終始する議論では、地域住民の理解は得られません。地域の未来を担う子どもを育てる学校づくりという目的を大切に、議論を進めました」

同町は2021年度に文部科学省の「新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業」の委託を受け、2022年度に「築上町立小中学校適正配置基本計画」を策定。町立小中学校10校を、学校と地域コミュニティが一体となった小中一貫校建設（**図、イメージ図参照**）を含む3校体制にする計

画を立案。学校に公民館の機能を持たせて、子どもと大人がつながりながら学べる場を構想した。

地域住民と町役場の全職員に 町教委の考えを伝える

「築上町立小中学校適正配置基本計画」に対して、統合予定の地域からは「学校を存続させたい」といった声が上がった。また、住民主体の**意見交換の場**も立ち上がった。

「再編統合は誰も経験したことがない、新しい時代に向けた施策であるため、地域住民からいろいろな声上がるのは当然です。子どもたちの50年先のWell-Beingを学校と地域が協働して実現するという**理念を浸透させるために、住民との対話を重視**しました」（久保教育長）

町教委は、子どもにかかわる多様な住民の意見に耳を傾けるため、アンケート調査の実施や校区説明会の開催に加えて、保護者、教職員、学校運営協議会委員、校区自治会長などで構成される「築上町立小中学校適正配置基本計画検討会議」を2023

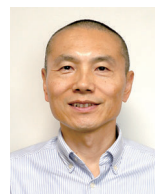


教育長

久保ひろみ

くぼ・ひろみ

福岡県教育庁京築教育事務所長等を経て、2019年11月から現職。



学校教育課課長

則松裕司

のりまつ・ゆうじ

2025年4月から現職。



学校教育課参事

濱田健太郎

はまだ・けんたろう

2024年4月から現職。

年11月に立ち上げた。

「日常で子どもたちと接する住民の意見を聞きながら、再編統合を経て今後どのような教育を目指すのか、町教委の考えを説明しました。検討会議の参加メンバーがそれぞれの地域で、町が目指すこれからの教育を発信してくれることを期待しました」（久保教育長）

その頃から久保教育長は**理念浸透**を図るために、毎月1回開催される町役場の全職員が対象の連絡会でも、再編統合に関する町教委の考えや計画の進捗を丁寧に発信するようにした。

「住民にとっては、町教委の職員もそれ以外の部署の職員も、同じ町の

図 築上町立小・中学校の再編統合計画の変遷

当初、10校の町立小・中学校を3校体制とする計画だったが、地域住民との対話を経て5校体制となった。



* 1 椎田中学校と施設一体型小中一貫校。 * 2 椎田中学校と施設分離型小中一貫校。 * 3 築城中学校と施設分離型小中一貫校。 * 4 築城中学校と施設一体型小中一貫校。

※築上町教育委員会の提供資料を基に編集部で作成。

職員です。住民の関心が高い学校の再編統合について、すべての職員が正しく、分かりやすく伝えられるようになることを目指し、全職員に対しての説明は今も続けています」(久保教育長)

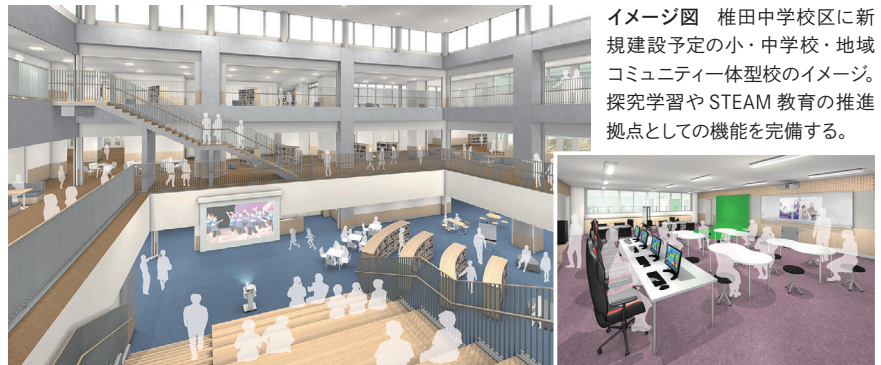
地域の思いを尊重し、計画を練り上げる

そうして2024年に策定した「築上町立小中学校再編統合実施計画」では、住民の意見や要望を反映し、「築上町立小中学校適正配置基本計画」とは異なる再編統合案をまとめた。

「一定規模の児童生徒集団の確保や、教職員集団の配置等が望ましいと考えながらも、対話を積み重ねる中で、地域住民の思いや願いも尊重すべきだと思いました」(久保教育長)

「併せて、ICTを活用した授業など、未来の学びの姿をイメージしてもらえるような事例を広く紹介し、再編統合の目的の共有を続けているところです」(学校教育課・濱田健太郎参事)

町教委では、「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現するため、ICT活用に関する教員研修を充実させ、



イメージ図 椎田中学校区に新規建設予定の小・中学校・地域コミュニティ型校のイメージ。探究学習やSTEAM教育の推進拠点としての機能を完備する。

小・中学校で教科横断的なSTEAM教育を進められるよう、指導主事が学校訪問を重ねている。

「地域を担う子どもたちを育てるために、既存の学校でSTEAM教育などを実践し、研究を進めたことで、新しい学校とそこでの学びへの期待感が醸成されています」(学校教育課・則松裕司課長)

10校の町立小・中学校を3校体制とする計画が、住民との対話を経て5校体制となった約3年間の検討プロセスを振り返り、久保教育長は「こ

の間、教育長として一番苦しかったのは、反対意見に対応する時ではなく、最終決断を下す時だった」と語る。

「十分に議論したという思いはあっても、学校の再編統合はやはり重い決断でした。しかし、教育長は目の前の決断から逃げるのが許されない立場です。再編統合のゴールは、築上町の子どもたちが地域に根差した学校の中で、よりよく育つことです。これからも、町の教育の進化を止めることがあってはならないと考えています」(久保教育長)

私がリーダーシップで大切にしていること



地域住民との対話を大切にして、町教委の考えや思いを町の実態とともに分かりやすく伝えていくこと、そしてそれぞれの地域住民の願いを丁寧にくみ取っていくことを常に心がけています。

* 通学区域に関係なく、就学を認められる、離れた場所にありながら一貫した教育を行う小・中学校のこと。